

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スカイ				公表日	令和 8年 3月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		机、椅子を移動して活動スペースを確保するなど工夫をしている。	天井がやや低いのが気になるが十分な広さである。このスペースの中で活動をより有意義なものにできるよう活動内容などを工夫していきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		保育士、児童指導員、心理担当職員、十分な職員を配置している。	職員の数是十分であるので、一人ひとりの役割分担を明確にして、毎日の療育活動や日々の業務に向かいたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		各フロアはバリアフリーとなっている。トイレも十分な広さがある。	建物2階にある事業所なので階段に手すりの設置を検討したい。歩行に配慮を要する子には、必ず職員が付いて見守り援助をする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		広さにゆとりがあるので、子どもたちは安心して心地よく過ごすことができていると思う。	毎日の活動や療育活動に生かせるような掲示などの室内環境について考えていきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		相談室やトイレ空間を利用している。	活動室はワンルームのため、クールダウンの際に活動室とは別の相談室をうまく利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		PDCAには全職員が参画し、日々の活動を行っている。	個別支援計画の立案は児発管が中心となり、毎月の療育活動計画や毎日の活動は主務やその日のリーダーが中心となり、全職員が参画している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎年実施している保護者アンケートの結果を活動に生かしていく心がけている。	保護者アンケート以外に、送迎時の保護者との会話でいろいろ話を聞いている。保護者の要望等に素早く対応していけるよう心がけていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員と話す機会を大切にしている。	個別で相談を受けた時も、上司に報告し負担にならないように改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	第三者評価について現在会社として検討中である。	虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を位置づけ定期的に会議・研修を進めている。BCPについても研修・訓練を行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		ラディアント全職員研修を年2回、施設研修を毎月実施している。	社内研修はもちろん、県や市が主催する研修、その他の研修にも積極的に参加していきたい。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムはHPに公表している。利用者には5領域との関係を示し日々実践している。	毎日の支援内容を考えるとき、われわれが常に5領域を意識し、それに沿った具体的な支援方法を考えていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		アセスメント、モニタリングとともに、日々の送迎時の会話から思いを聞き、計画立案に生かしている。	計画立案にあたって、日ごろの保護者との会話から全職員が感じているニーズや課題をもとに目標設定、支援の方法を考えている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画の立案、モニタリング、評価などに全職員の見方が反映されるよう検討会を持っている。	ミーティングを活用し、職員間で意見を出し合い、皆で利用者のことを考える雰囲気づくりに力を入れていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画の内容に沿って、専門的支援の内容等も検討している。	常に個別支援計画の内容に立ち返って日々の支援、療育活動を進めるよう心がけていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		ラディアント独自のアセスメントシートを現在使用している。アセスメントシートは毎年見直し少しずつ改善している。	中学部や高等部への進級の際に再アセスメントを実施している。利用者の姿は日々変わっていくので、今後も再アセスメントを行ってきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		弊社の児発管会議においても、計画の作成の仕方、本人支援と家族支援、さらに移行支援と地域支援のあり方について学習する機会を設けている。	個別支援計画の内容が非常に複雑になり、難しさを感じているが、今後も日々の研修を継続しながらより良い計画が作成できるよう心がけていきたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		リーダーを中心にみんなで考え立案している。	リーダーからの提案をみんなで検討し、アドバイス合って活動を行っている。この形を大切にしたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		同じ療育活動でもやり方を工夫しながら進めている。	作業的な活動が多いが、毎回同じ活動では意欲が下がっていく。やり方を工夫し、楽しく活動できるよう工夫していきたい。	

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を意図的に仕組み実践している。	個別活動と集団活動はこれまでと同様に意識して実践していく。その中で、集団活動の中での個別の支援の在り方なども常に考えていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日職員のミーティングを必ず行っている。	その日の利用者の確認、送迎の確認、療育活動の内容、注意事項、職員の役割分担の確認などを確実にやっていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		帰りの送迎後、または次の日振り返りを行っている。	その日の療育活動の中での子供たちの姿、頑張ったこと、課題点、支援の仕方についての振り返りを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者との連絡帳、療育活動日誌にきちんと記録している。	その日の子供たちの様子を詳しく伝えられるよう、連絡帳への記載内容を充実させていく。活動日誌にもできる限り詳しく記載し残していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		一人ひとりの姿を全職員で交流し、計画の見直しに生かしている。	利用期間の長い利用者さんについては、中学部、高等部への進学時などに再アセスメントを行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		活動内容が偏らないよう意識している。	作業的な活動、園芸などの体験活動を中心に、ガイドラインに沿ってバランスよく活動内容を考えていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		カードやものを見て選択するなど活動の中で子どもたちが自分で考え自分の意思で決定できるような場面を意図的に仕組んでいきたい。	子どもたちが自己決定できるような活動の在り方について我々も研修を深めていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議には主に児発管が参加している。	新しい利用者さんのことを十分に理解できていないところもあるので、その子をよく知る職員が会議に積極的に参加できるようにしたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校との情報共有は出来ているが関係機関との連携は決して十分ではない。	どのような機関とどのような連携ができるか研修を深めていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		毎月の利用計画や実績を確実に学校に提供している。	スカイでの様子を、担任の先生や保護者にも実際に見ていただくことができるよう、常に開かれた施設運営をしたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		支援学校や弊社スケッチブックとの連携、情報交流に力を入れている。他事業所との連携も深めていきたい。	利用者の全員が特別支援学校の中学部、高等部の生徒であるので、支援学校とスケッチブックとの連携を今後も大切にしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		高等部卒業後、障害者福祉サービスを利用するときには確実に情報を提供していく。	高等部卒業後、弊社生活介護事業所を引き続き利用される子がいる。他事業所向かう子もいる。当事業所での情報を確実に提供していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		社内研修に専門機関の方を講師として招いて研修を行っている。	弊社で児発管の資格を持つもの全員で毎月児発管会議（研修）を行っている。その研修にも専門の方を招き、助言を求める機会を作っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		そういう機会を作れないか考えているが、なかなか良い案が浮かばない。	毎年のように考えてはいるがこれまでのところ実現できていない。他の事業所での取り組みがあればぜひ参考にさせていただきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		市主催の協議会等へはできる限り出席している。	障碍者の暮らしを支える協議会にこれからもいろいろな職員が参加できるように考えたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎の際の保護者との会話を大切に、共通理解を図っている。	連絡帳でその日の利用者さんの様子を丁寧に伝え、送迎時にその日の姿を言葉で伝えることで子どもの姿について共通理解を図っていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		いろいろな機会をとらえ保護者にアドバイスできるように心がけていく。	研修等でペアレントトレーニングについて学んでいく。その上で保護者に的確なアドバイスができるよう信頼関係を深めることに力を入れた。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		新規契約時に保護者に対して丁寧に説明を行っている。	今後も運営規定、支援プログラム、療育活動内容、利用者負担等について個々に丁寧に説明していきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		まだ十分ではないが今後保護者との面談や担当者会議などを充実させたい。	我々から発信して開催する面談や担当者会議を積極的にやっていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		児発管が中心となり説明を行い、計画や評価についての同意を得ている。	丁寧に分かり易い説明に心がけ、しっかり理解していただけるよう努力したい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎の際の会話や担合などで保護者の思いを十分聞くように心がけている。	いろいろな相談に対し、我々が持つ専門的な知識・経験や子育ての経験をもとに、保護者に寄り添い助言やアドバイスを続けていきたい。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	今年度は保護者会は開催できなかった。保護者会、療育参観、親子活動等について検討していきたい。	ここ数年保護者会が開催できていなかったのので、今後療育参観等について考えていきたい。今後も会の持ち方について検討したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情等があった時には、その情報を全職員に伝え対応について考えている。	苦情に対処しすぐに全職員で対応について検討し、迅速に動くこと。謝罪等が必要な場合、誠意をもって謝罪することを今後も徹底していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	活動の様子をHP上で素早くお伝えできるよう努力している。	毎月の新聞やHP上のブログを楽しみにしている利用者さんもある。子どもたちが頑張っている様子を少しでも早く発信、提供できるようにしたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の取り扱いには十分注意している。	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていききたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している。	保護者に対して丁寧な説明を心がけていきたい。表記の仕方を工夫するなどして、きちんと理解していただけるよう努力していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域の農業事業所で収穫体験などをさせてもらった。	弊社の他の放課後デイ事業所と連携し、一緒に地域との交流を図るなど考えていきたい。農業体験などを通して交流の機会を作っていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	全ての対応マニュアルを整えている。	全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対して周知という点ではまだ徹底できていない。また訓練にもっと力を入れていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	災害発生時、感染症発生時などを想定し、まずは施設長会（BCP対策委員会）の中で研修や対応訓練を行っている。	BCPについての研修や訓練を全職員に対して実施し、危機意識を高めていかなければならない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	アセスメントの際にきちんと調査している。	学校やスケッチブック等で発症があったときの状況や情報に敏感になっていかなければならない。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アセスメントで食物アレルギーについて確認している。	食物アレルギーとてんかん発作についてアセスメント時に調査している。このデータを日々の療育活動に確実に生かせるよう努力していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	BCPや感染症対策についても法人として力を入れ、研修を行っている。	事故の未然防止を考える上でも、今後も定期的に研修の場を設け、日々の安全管理に力を入れていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	法人内で研修等は行っているが、家族等への周知という点では決して十分とは言えない。	家族等への周知の仕方について今後法人として検討していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している。	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し事業所内で常に話題にし共有している。同時に管理職に報告している。今後もこの形を継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	社内研修に全職員対象の虐待防止研修を位置づけている。	今後も社員研修の一環として社内の虐待防止研修会を実施していく。虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会も定期的に開催する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	現在その対象となるような利用者はいない。	今後やむを得ず身体拘束が必要になる場合には、その記録をきちんと残り、日々の様子をきちんと保護者に伝えることを確実に進めていきたい。	